

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年6月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892800012		
法人名	有限会社 なかよし		
事業所名	グループホーム なかよし	ユニット名	1
所在地	〒306-0626 茨城県坂東市小山2131-5		
自己評価作成日	平成25年11月25日	評価結果 市町村受理日	平成26年6月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=089280012-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年1月30日	評価機関 決 済 日	平成26年6月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームでの生活を大切にしながら、屋外への散歩・外出など積極的に行うようにしている。面会時間を決めないことによりご家族が、いつでも気軽に面会できるように取り組んでおり、大変好評を得ている。施設の行事には毎年、ご入居者・ご家族・近隣住民の方々との交流を深める意味も含め、地域交流会を行っているが、地域での行事として認識していただけるようになり、楽しみの一つとなっている。また、食事に提供する野菜などは、自家菜園で栽培しておりご入居者は「目で見て・触れてみて・味わってみて」と五感を刺激するような支援に取り組んでいる。庭には花壇を設け「花壇コンクール」に応募し毎回受賞をしている。また、クリスマスのイルミネーションも取り入れ、地域の方々共に喜んでくださり好評を得ている。常に日々の暮らしの中で、季節感を味わっていただけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は幹線道から車で3分程脇に入った場所に立地しており、周りは閑静な住宅地で利用者が落ち着いて暮らせる環境となっている。
代表者が地元出身で地域住民とも顔馴染みの間柄にあることから、年2回家族等や地域住民を招待して事業所主催の「交流会」を開催し、利用者が地域の人々と楽しめるよう支援している。
事業所内で開催する行事に地域で暮らす高齢者を招待しており、参加が得られ易くなるよう職員による送迎を行っているため好評で、自治会の年間行事にも組み込まれている。
事業所では定年制を設けていないため利用者の年齢に近い職員も勤務しており、若い職員より利用者が幼少期から体験してきたことを理解したり、高齢による身体の悩みを理解することができ、よりいっそう利用者の思いにそった支援につながっている。
管理者は職員一人ひとりの得意分野を活かし、自家菜園や収穫物の活用方法、献立作り、調理方法、健康管理方法、看取り介護に向けた研修などの担当を決め、職員に任せることにより自信につながり、仕事への意欲がでるよう職場の環境づくりに取り組んでいる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、理念を作成し玄関に掲げている。ミーティングや研修会で理念の意義を再確認し意識を高め実践出切るよう取り組むと共に職員は、常に明るく入居者、ご家族の話を聞き全ての人が笑顔あふれる施設作りに努力している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、職員の出勤時に確認ができるよう玄関に掲示している。 管理者と職員は月1回の全体会議や研修時に理念を確認しながら共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区長さん、民生委員さんの協力を得て、年2回地域の方々を招いて交流会を開催している。その際には、地域の方がボランティアで参加して下さったり、ご家族も参加して交流を図っている。自治会にも加入し総会・公民館掃除・缶拾いに職員が交代で参加している。	代表者が地元出身であることから地域住民と馴染みの関係を築いている。 自治会に加入し、職員は総会に出席するほか、公民館の掃除や地域の清掃活動などに参加している。 毎年5月と10月に利用者や家族等、地域住民との交流を目的とした事業所主催の「交流会」を開催している。 「交流会」では演歌歌手による歌謡ショーやボランティアによる民謡、踊り、カラオケなどの催しがあるほか、職員がおにぎりを作って振舞っている。 毎年クリスマスの時期には事業所の周りをイルミネーションで飾っており、利用者や地域住民の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流会や散歩などで顔馴染みとなり、お互いに声を掛け合うことで認知症の理解が深まるようになってきている。運営推進会議には、行政、地域の代表、ご家族の代表の参加があり、その際に認知症、介護の事など質疑応答の時間を持つようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。毎回入居者代表、ご家族代表、地区長さん、民生委員さん、介護福祉課職員、地域包括支援センター職員の方々が出席して下さり、施設の活動報告・お互いの意見交換の場としてサービスの質の向上に活かしている。運営推進会議議事録を作成している。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、区長、民生委員、事業所の代表者、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や行事、運営状況の報告を行うとともに課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 区長から出た「事業所前の道路は見通しが悪いので、事故防止にカーブミラーを付けた方が良いでしょう」との提案を受け、話し合いの結果、自治会が四つ角にカーブミラーを設置してくれている。 家族アンケートを実施した結果、「利用者が買い物をする機会が少ない」との意見を会議に報告し、委員と話し合っって買い物も含めた外出支援を取り入れるように改善している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などのお知らせは、電話やFAXではなくて、直接訪問している。市役所からの紹介の生活保護の方が入居されているため月1回は市担当者の訪問があります。その際には、入居者の状況などについて報告を行い、ご本人に面会をしていただいている。	管理者は要介護更新認定の申請や行事のお知らせなどで市担当者を訪問した機会に、運営状況や空き情報を報告して協力関係を築くように努めている。 市から介護保険制度の改正や研修、お知らせなどが随時ファックスで届くほか、月1回市担当者が来訪し、生活保護受給利用者と面談して利用者の話を聴いている。 管理者はどんな要件でも電話ではなく直接市担当者と話すことを心がけ、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践に取り組むため、施錠しないで済むケアについて職員で話し合いを行い、施錠しない時間を作る・担当を決めるなどして取り組んでいる。玄関には、身体拘束廃止に向けての方針を掲示している。外に出たがる入居者の方には、意思を尊重し職員が付き添い外出している。	身体拘束や行動制限を行わないことを契約書に明記するとともに、職員は年1回身体拘束を行わないケアの研修を受講しており、全職員が身体拘束の内容と弊害を理解している。 一部の利用者に徘徊があるため、家族等の同意を得て職員の手薄になる時間だけは玄関を施錠しているが、利用者が外に出たい時には職員が見守りながら支援している。 昨年度は一日中玄関を施錠していたが、現在は特定の時間だけ施錠するよう改善してきており、管理者と職員は利用者の体調や様子などを話し合いながら、玄関を施錠しない支援に向けて検討している。 職員は利用者が感情的に言葉を発した時でも言葉を押さえつけることはせず、そばに寄り添って話を聴き、利用者が自由に話すことができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の研修を行い、虐待の理解を深め身体的虐待、心理的虐待などを防止するように、管理者や職員が目配るようにしている。職員の精神面や言動に変化があれば話し合う機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について資料を配布し、話し合いしながら研修会を行っている。ご家族の状況に合わせ施設長に相談し社会福祉協議会と連携するようになっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時の契約などは、入居者、ご家族のご希望を十分にお伺いし、自宅での生活、生活パターン、困りごとや不安に感じる事など、アセスメントを行い説明して理解・納得をさせていただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時や面会時、施設の行事の際にも管理者・職員は、ご家族のご意見やご要望を聴くよう努めている。ご家族にアンケートをお願いし、集計を行い、問題点・改善点がないか話しあっている。その結果を運営推進会議で報告している。	管理者や職員は利用者との日々の会話から意見や要望を聴いている。 事業所は毎月の利用料を現金払いとしており、家族等が利用料を支払いに来た際や家族会開催時に話を聴くほか、年1回家族アンケートを実施して意見や要望を汲みあげるよう努めている。 家族アンケートの回収率は低い、「利用者には買い物をさせて欲しい」との要望を受け、管理者は買い物ができるように外出支援をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長・管理者は、ミーティングの場などにおいて、運営に関することや、提案を聞く機会をつくっている。その際出た意見を記録している。	管理者は月1回の全体会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、休憩時間にコミュニケーションを図り、日頃から何でも言い合える関係づくりに努めている。 職員から「カラオケの機械が壊れてしまったので、ワイヤレスマイク式のカラオケ機械を購入して欲しい」や「風呂場に手摺を設置して欲しい」との要望があり、管理者は代表者と相談してカラオケ機械を購入したり、風呂場に手摺を設置するなど、職員の意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会や話し合いの場を設け給与、労働時間、不満やストレスを感じていないかなどの意見を聞き常に職員が仕事をしやすい環境を整えるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や講習会への参加を支援し施設内研修を実施している。また、職員間でも介助方法や接し方など良い方法を考え話し合いながら、お互いがスキルアップ出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域施設部会等に参加し勉強会をしている。他施設の方との交流を持ち、お互いの情報交換をしてネットワーク作りをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人の話を良く聞いて安心していただけるようにしている。常に困った事、不安な事、して欲しい事などを聞きながら、慣れていただけるよう職員との関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や見学・訪問時に、自宅での過ごし方や状態、困りごと、不安な事などを聞いている。ご家族が自宅で大変だったと思う気持ちに寄り添いながら、良い関係を作れるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、ご本人ご家族との十分な話し合いで要望、状態にあった支援の方法を考えている。福祉用具、理容サービス、訪問歯科等、必要なサービスについても取り入れるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者に昔の風習や生活の知恵を教えてもらうことにより尊重し寄り添いながら、共に暮らす家族のような関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に面会時やお電話で近況をご報告したり、運営推進会議には、ご本人とご家族に出席していただき、活動報告、近況報告をしている。家族会開催時には、ご本人とご家族の団欒の場を設け、絆を大切にしながら共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間には制限はなく、ご本人が大切にしてきた知人、友人、親類の方々には気軽に面会にきていたさき、居室で談笑したり居心地良く過ごしてもらえようとしている。お盆、お彼岸など外出を希望する場合は、ご家族に連絡を取り、ご家族や馴染みの方と過ごす時間を作るようにしている。	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の友人や親戚が来訪した際にはお茶を出して居心地よく過ごせるように努め、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。 職員は利用者が行き慣れた美容室に同行しているほか、家族等の協力を得ながら墓参りに出かけたり、馴染みの店で買い物や外食などができるよう支援し、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を理解し、職員が必要に応じて関わり、トラブルにならないようタイミングを図り声掛けしている。お話ができる場を設けたり、一緒に行うレクリエーションなどをして孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の希望で看取りの入居者がありました主治医とご家族との連携を行いながら対応しました。病院ではなく慣れ親しんだホームで最期を迎えられた事に感謝して下さり、亡くなられた後にも訪れてくれます。退所後も相談や来訪を受け入れるようにして、他のサービスが必要な場合にはサービスの紹介を行うようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、常に声を掛けたり話を良く聞き、表情や日常会話などから本人の意向などを伝えやすい環境づくりに心掛け、把握出来るように努めている。ご家族の面会時には、話を聞き家に居た時の事や本人の意向、希望などの情報を得るようにしている。	管理者や職員は入居時のアセスメントから利用者の生活歴を把握しているほか、日々の係わりのなかで会話や行動を観察しながら利用者の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者の場合は、表情やしぐさから判断したり、家族等から情報を得ているほか、職員で話し合って利用者の思いを検討している。把握した内容は「個人ファイル」に記載し、全職員で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、入居前のケアマネジャーの方などから、生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等情報収集し、ご家族や職員と共有しながら支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックを行い、職員全員が心身の状態把握に努めるようにしている。表情・発言・態度などから、体調や様子の変化に気づき対応できるように心掛けている。一人ひとりの状態に合わせた支援に取り組んでいる。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時には、ご家族とご本人の意向を良く聞き、課題・ケア内容を考え計画を立てるようにしている。入居後も日々の生活のなかからご本人、ご家族等と相談し、職員の気づいた事や意見を取り入れ介護計画を作成し同意を得ている。	介護計画は月1回カンファレンスを実施し、利用者や家族等の意見や要望、医師や職員の意見を取り入れて作成するとともに、毎月モニタリングを実施して見直している。利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入の際、バイタル・食分量・排泄チェック・ケアの実践・気づきや状態を記入し、職員と話し合い情報を共有しながら、日々の生活に取り入れ活かし、介護計画の見直しなどにも反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況・希望に合わせてご家族との外出・外泊などを支援している。面会時間を決めず心配な時などは宿泊できる体制も整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽器の演奏・フラダンス・そば打ちなど様々なボランティアとの交流をしている。また、主治医の先生の自家菜園を見学しながらお話をしたり、馴染みの方と過ごす時間を入居者の方々は、とても楽しみにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人、ご家族等に協力医院を主治医にすることを説明し、同意を得ている。週1回の訪問診療や状態変化や緊急時には24時間連絡が取れる体制となっている。他専門医の受診はご家族等の支援をお願いしているが、ご家族等の事情に応じて付き添えるよう支援している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能ことや協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、現在は利用者全員が協力医療機関の医師を主治医としている。 週1回協力医療機関の医師による訪問診療が受診できるよう支援するとともに、随時訪問歯科診療が受診できるよう支援している。 利用者の状態に変化が生じた場合や緊急時にはいつでも適切な医療が受けられるよう、協力医療機関と24時間連絡が取れる体制となっている。 受診結果は家族等に電話や来訪時に報告するとともに「個人ファイル」に記録し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員に入居者の健康状態の変化時は、相談し受診や看護を受けられるような体制をとっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医以外にも協力医院としての医療機関も定めている。入院処置が必要となれば、主治医と連携を図り対応することになっている。また早期に退院できるように医療機関の医師相談員等と連携し退院後の留意点等を伺い、受け入れの体制を整えるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や看取りに向けた施設の対応方針をご家族等に説明している。終末期の段階になった時には、ご家族等に希望を再確認し、希望に添った終末期を送れるようにしている。看取りに向けて主治医と24時間の連携体制を築いている。また、看取りに向けた職員の意思と知識習得のため看護師を交え研修会を行っている。	契約時に重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を説明し、利用者や家族等の同意を得ている。 終末期に入ったら看取りに関する医師の説明書を作成し、家族等の同意を得ている。 昨年度は主治医と24時間の連絡体制を取りながら、家族等の協力のもと、2例の看取り介護を行っている。 看護師の資格を持つ職員を中心に、定期的に全職員で看取り介護に向けた研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備えて、応急処置・初期対応が実践出来るよう研修などを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと年2回の消防訓練を実施し、近隣住民の協力を得ている。3月の消防訓練実施時に課題として、夜間想定訓練が必要と考え9月の消防訓練時に実施した。	避難訓練は消防署立会いのもと近隣住民の参加を得ながら年2回実施し、うち1回は夜間想定訓練を実施している。 避難訓練の実施記録を作成し、訓練後の反省点や今後の課題などを話し合って記録に残している。 事業所の非常事態を通報する警報機や赤色灯を事業所の外に設置しており、非常時にブザーを押すとサイレンが鳴り響くとともに赤色灯が光り、地域住民が駆け付けてくれることになっている。 災害時に備えて食糧や飲料水、毛布、救急用品、簡易トイレ、懐中電灯などを備蓄しているが、一覧表を作成して数量や賞味期限を管理するまでには至っていない。	備蓄品は数量や賞味期限などを記載した一覧表を作成して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者を人生の先輩として尊重し、昔の風習や生活の知恵・節の行事に関する事など聞くようにしている。一人ひとりに対して言葉遣いや対応に気をつけ、プライバシーを損ねないように努めている。入居者の書類は、鍵がかけられる事務所に保管している。	管理者と職員は利用者の呼び方や言葉遣いなどに気を配り、利用者が言われたくないことを言わないように意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて支援している。 職員はトイレ誘導時には利用者に小声で声をかけるほか、トイレのドアを閉めて扉の外で待つなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務所の施錠ができる保管庫に保管し、情報漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者それぞれに合った声掛けや対応を心掛け「なにがしたいのか」「なにを望んでいるのか」職員と共に思いを理解し、本人が表現しやすい環境づくりに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そ日の体調、状態に合わせた本人の希望を大切にしながら、入居者それぞれのペースでゆったりと過ごせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者と一緒に選んだ洋服を着て頂いたり、本人、ご家族の希望により洋服の買い物に出掛けたり、地域の理容店や美容室に出掛け、パーマや毛染めをしたり、訪問理容サービスの利用も行っている。その方らしい身だしなみや、おしゃれを楽しむ事ができる支援をしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で収穫した季節の野菜を食材に取り入れ、どのような料理にしたら良いか一緒に考え、得意だった料理のアドバイスをいただいたり、漬物を漬けていただいたりしている。会話をしながら楽しく食事ができるよう支援している。	献立は利用者の希望を聴きながら、自家菜園で収穫した大根や小松菜、白菜、ねぎ、さつまいも、春菊、じゃがいも、里芋、菜の花、茄子、きゅうり、ししとうなどの季節の野菜を食材に取り入って作成し、職員が調理をしている。 利用者は大根を切干大根にしたり、白菜で漬物を漬けるなど、職員と一緒に食事作りをしているほか、できる範囲で食事の準備や後片付けをしている。 職員はごはんやパンなどの主食を持参しているが、おかずは利用者と同じ物を食べ、同じテーブルを囲んで楽しく会話をしながら食事が楽しめるよう支援している。 誕生会には手作りケーキと刺身で祝ったり、行事時には特別食を提供しているほか、外食を取り入れて食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や職員が、入居者の状態、好みに配慮し、美味しく食事が摂れバランスの良いメニューを考えている。水分摂取は、状態に合わせて回数を増やしたり、飲み物を変えたり工夫しながら摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで介助し、義歯の洗浄、歯磨きはできるだけご自分でやっていただけるようにしている。口腔内の清潔を保ち、状態を確認し、必要があれば訪問歯科に診察してもらう。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録で排泄パターンやリズムを把握しトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を勧めている。立位が困難な方もトイレで排泄できるよう職員が2人介助で行っている。	職員は排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。 夜間おむつを使用している利用者でも日中はリハビリパンツとパッドを使用してトイレで排泄ができるよう支援している。 立位が困難な利用者には職員が二人で介助し、トイレで排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自家菜園で収穫した野菜を中心に食事メニューに取り入れ、食物繊維を多く摂取していただけるようにしている。多目の水分補給とヨーグルト・バナナなども勧めている。また、体操・散歩・生活リハビリをして予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回となっているが、毎日用意し入居者の体調・希望に応じて対応している。菖蒲湯・ゆず湯など入浴を楽しんでもらえるようにしている。医師の指示により終末期であっても、できるだけ湯船に入ってもらえるように2人介助で行っている。	風呂は毎日沸かし、週3回を目安に入浴日を設定しているが、利用者の状態や希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴など、個々に応じた対応をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず職員や時間帯を変えたり、「一番風呂に入りましょう」や「温泉に入りましょう」などの利用者の興味のある話をしながらさりげなく風呂場へ誘導するなど、言葉かけに工夫して入浴ができるよう支援している。 端午の節句や冬至には菖蒲湯や柚子湯にして季節感を取り入れ、入浴が楽しみなものとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動、レクリエーションや散歩などで夜間の睡眠がとれるようにしている。日中も部屋で休んだり、テレビを見ながらソファで横になって休んだりしている。各部屋の室温は、ご本人が過ごしやすい室温にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの十分な説明と薬剤師との連携をしている。薬の作用、副作用を理解し服薬介助服薬確認、服薬後の確認を行っている。薬が変更された時には、ご家族にも伝え、職員も把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自家菜園で収穫した野菜の下ごしらえや、漬物が好きな方には漬けて頂いたりしている。花壇の手入れもやり方を教えてもらいながら一緒にするようにしている。洗濯物も出来るだけ自分の物たんで頂くように勧めている誕生会の手作りケーキをデコレーションしてもらい喜んで頂いている。カラオケや散歩も楽しみの一つとなっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望・体調・天候に合わせ散歩に出掛け、地域の方と触れ合う機会を作っている。庭にでて花を見ながら、お茶を飲んだりしている。季節行事の花見・部落の盆踊りなど職員が同行し、その際には外食をしたりしている。また、帰宅・外出の際には、ご家族の協力を得ながら支援している。	天気の良い日には利用者と職員で事業所周辺や近くの利根川の土手を散歩して五感を刺激したり、四季の移り変わりを肌で感じられるよう支援するとともに、散歩に行けない利用者には、事業所の中庭にテーブルと椅子を配置し、お茶を飲みながら日光浴をしたり、外気にふれられるよう支援している。 毎月季節の花を見物する外出行事を年間計画に組み込むとともに、外食や買い物、近隣の公園で弁当を食べるなどのドライブを企画し、四季の移り変わりを肌で感じ、気分転換ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は自分で管理し、買い物美容院の支払い等、ご家族の了解のもとご本人がされている。出来ない方は、必要に応じてご家族にお願いしたり、施設で立替えるなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が、ご家族や知人等に電話をかけたいと希望があれば事務所の電話を使って頂いている。手紙などを出したいと希望があれば、職員がお手伝いしながら支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間・トイレ・食堂には、庭で咲いた季節の花を絶やさないように生けている。廊下・食堂の壁には、行事の写真などを飾っている。また、金魚・犬などを飼い癒しの一つとなっている。季節を感じて頂けるように、こいのぼりやクリスマスのイルミネーションも取り入れている。玄関・食堂に加湿器を置き湿度に配慮したり、音楽を流し、和みの空間を得られるようにしている。	感染対策として玄関に微酸性次亜塩素酸水の霧化器を設置し、外部から菌が持ち込まれないよう工夫している。 玄関や居間兼食堂には代表者が制作した吊るし雛などを飾り、季節感を取り入れている。 廊下の壁には南国を連想させるバスタオル程の大きさの絵画が飾られ、温かくのんびりとした雰囲気となっている。 廊下に手摺を設置するとともに、利用者が疲れた時に休憩できるよう廊下の隅に椅子を配置し、安全に暮らせるように配慮している。 浴室と脱衣所との間に温度差がないよう脱衣場にエアコンを設置して温度調節をしているほか、服を着脱する際の転倒予防のため椅子を配置したり、風呂場に手摺を設置したりして、利用者が安心して入浴ができるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内で趣味の時間を過ごしたり、面会の方が来た時は、部屋でゆっくり気兼ねなく過ごして頂いている。気の合う方を部屋に招いてお茶を飲みお話したり、ロビー・廊下に置いた櫛の椅子に座り、お話を楽しんだりしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、床暖房を備えている。ご家族の写真を飾ったり、馴染みの家具、テレビなどをご家族と相談しながら置かれている。亡きご主人の写真を飾られて、お水・お花を供える方もいる。	居室は床暖房で、エアコンやカーテン、照明器具、クロゼットが備え付けられている。利用者は家族等と相談しながら使い慣れたベッドや布団、整理筆筒、テレビ、CDプレイヤー、CD、家族の写真など、思い思いの物品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部は段差がなく、玄関・トイレ・廊下食堂には手すりを設置している。「車椅子使用を出来るだけしない」を目標に、環境を活かし、時間がかかっても、筋力が低下しないよう、出来る事は見守りながら行って頂くよう支援している。			

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム なかよし

作成日 平成26年6月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	備蓄品の数量や賞味期限などを記載した一覧表が作成されていない	備蓄品の数量や賞味期限を記載した一覧表を作成し、管理する	一覧表により備蓄品の把握と数量、賞味期限をチェックする	2ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。